

文化



太神宮灯籠を調査する郷土研究部の部員（1985年、石橋源一郎氏提供）

私は考古学を中心に、文化遺産全般に関わる仕事をしているが、今回、「新な会をいただいたので、思い出話も盛り込みながら、考古学とは違う私個人の活動を振り返ってみたい。

1984年、町立田原本中学校に郷土研究部という課外クラブが誕生した。同じ年に、ある新聞で考古学の連載が始まった。その第1回で書かれた言葉が「歩けオロジー」だった。この言葉は、考古学の英語「アーケオロジー」をもじったもので、韓国や中国の遺跡を歩きまくるという、その後の私の研究スタイルの根幹となる言葉だったが、この言葉に乗せられるように20数人の部員たちは、路地や畔（あぜ）道も含め、田原本町内の道を隈（くま）なく歩いた。

その結果、1年目には37基の道標を、2年目には61基の太神宮灯籠を確認した。1学期と夏休みの間に

私の歩く見る聞く

▼観音講の人々

だか分からない子どもが突然やつてきて、あれやこれやと聞いてくるのだから、不審がられてもおかしくないのだが、断わられたり追い返されたりしたことほなかつた。当時の私は、このような行事は何事もなくずっと続いているものだと疑いもなく思っていた。

2009年に広陵古文化

会で「大和國三十三所」の

発表をする機会を得たの

が、発表当日に同年代の聴

講者の女性たちから、「観音

講は今も私たちが引き継い

で続けていますよ」と声掛け

いただいた。その時の喜びは今も忘れられない。私

は、今も忘れない。

▼歩けオロジー

私は考古学の機会をいただいたので、思い出話をも盛り込みながら、考古学とは違つ私個人の活動を振り返つてみたい。

1984年、町立田原本

中学校に郷土研究部とい

う会をいただいたので、思

い出話をも盛り込み

ながら、考古学とは違つ

る私個人の活動を振り

返つてみたい。

▼観音講の人々

郷土研究部では毎年、部員が個人で行うレポートのコンテストがあった。その題材に私が選んだのが「大和國三十三所」という中和地域の4市4町に分布する

号に掲載され、私たち部員の大好きな自信になつたこと

は言うまでもない。

なお、余談であるが、歴史クラブといふことで、ひ弱なオタク集団と見られがちなのだが、真夏に町内の全ての道を踏破した部員たちの足腰の強さは、体育系の課外クラブにも引けを取らないもので、体育祭の部活対抗リレーで存在感を示していたことも、懐かしい思い出である。

民俗通信

20 山田 隆文

町中を歩いて調査した結果を、2学期の間にレポートにまとめて文化祭で発表したが、この調査成果は、田原本町が発行していた『田原本の歴史』第4号と第5号に掲載され、私たち部員の大きな自信になつたこと

は言うまでもない。

なお、余談であるが、歴史クラブといふことで、ひ弱なオタク集団と見られがちなのだが、真夏に町内の全ての道を踏破した部員たちの足腰の強さは、体育系の課外クラブにも引けを取らないもので、体育祭の部活対抗リレーで存在感を示していたことも、懐かしい思い出である。

地域を探検、次世代へ



押熊瓦窯での総合学習のようす（2021年、奈良市立平城小学校提供）

だか分からぬ子どもが突然やつてきて、あれやこれやと聞いてくるのだから、不審がられてもおかしくないのだが、断わられたり追い返されたりしたことほなかつた。当時の私は、このような行事は何事もなくずっと続いているものだと疑いもなく思っていた。

2009年に広陵古文化会で「大和國三十三所」の

発表をする機会を得たの

が、発表当日に同年代の聴

講者の女性たちから、「観音

講は今も私たちが引き継い

で続けていますよ」と声掛け

いただいた。その時の喜びは今も忘れない。私は、今も忘れない。

▼歩けオロジー

私は考古学の機会をいただいたので、思い出話をも盛り込みながら、考古学とは違つ私個人の活動を振り

返つてみたい。

1984年、町立田原本

中学校に郷土研究部とい

う会をいただいたので、思

い出話をも盛り込み

ながら、考古学とは違つ

る私個人の活動を振り

返つてみたい。

▼歩けオロジー

私は考古学を中心

に、文化遺産全般に

関わる仕事をしているが、今回、「新な

会をいただいたので、思

い出話をも盛り込み

ながら、考古学とは違つ

る私個人の活動を振り

返つてみたい。

1984年、町立田原本

中学校に郷土研究部とい

う会をいただいたので、思

い出話をも盛り込み

ながら、考古学とは違つ

る私個人の活動を振り

返つてみたい。

1984年、町立田原本

中学校に郷土研究部とい